WOOD　JOB！

表題と写真「ウッジョブ !」は、矢口史靖監督の最新作である。チラシによると「これまでユニークなテーマに目をつけ、日本中に笑いと感動を届けてきた矢口監督が次に選んだのは、なんと”林業”!　原作は三浦しをんのベストセラー小説『神去なあなあ日常』(徳間書店刊)。都会育ちの少年がひょんなことから、ケータイも圏外でコンビニもない”森”で働くことになり---。まったくの未知なる世界に飛び込んでしまった、一人の若者の成長を軸に繰り広げられる爆笑と感動の物語。スクリューボールな展開に笑い、ダイナミックなクライマックスに手に汗握り、人間と自然がおりなす温かなエンディングに胸がアツくなる!!」とある。

2 時間近い映画であるが、退屈せずに、画面に引き寄せられる感じで見入った。まさに「爆笑と感動と衝撃の青春林業エンタテインメント」である。ストーリーは次のとおりだ。毎日お天気に過ごしていた、チャランポランな男子・勇気は、大学受験に失敗、彼女にもフラれ、散々な状態で高校の卒業式を迎える。そんな時、ふと目にしたパンフレットの表紙でほほ笑む美女につられ、街から逃げ出すように 1 年間の林業研修プログラムに参加することに。ローカル線を乗り継ぎ降り立ったのは、ケータイの電話も届かぬ”超”が付くほどの田舎・神去村。鹿や蛇やら虫だらけの山、同じ人間とは思えないほど凶暴で野性的な先輩・ヨキ、命がいくつあっても足りない過酷な林業の現場---。堪えきれず逃げ出そうとする勇気だったが、例の表紙の美女・直紀が村に住んでいると知り、留まる事を決意するが---。休む間もなくやってくる新体験、野趣あふれる田舎暮らし、とてつもなく魅力的な村人に囲まれ、勇気は少しずつ変化してゆくー。

この映画を見たのは、原作の『神去なあなあ日常』を読んだことによる。テーマに興味があり一気に読んだが、最初だけ紹介しよう。神去(かむさり)村の住人には、わりとおっとりとした人が多い。一番奥まった神去地区のひとたちとなると、なおさらだ。彼らの口癖は「なあなあ」で、これはだれかに呼びかけているのでも、なあなあで済ませようと言っているのでもない。「ゆっくり行こう」「まあ落ち着け」ってニュアンスだ。映画でも、村のお婆さんたちの会話などに「なあなあ」がよく出てくる。スローに、気ままに生きる村人たちの心が伝わってくる。「なあなあ」という感じで。

この映画と小説は「限界集落」などと呼ばれ、過疎に悩む村から、若者や子どもたちの元気な声が聞こえてくるようだ。10 月 5 日・10 日のレポートとは対照的に、とにかく元気をもらえる。映画ないし小説を、一見ないし一読を。

(2014 年 10 月 31 日)